

敷石住居跡



町指定重要文化財 敷石住居跡 昭和 46 年 7 月 24 日指定

金子と山田の間に位置する台地には、「ストーンサークル」とともに、縄文時代中期～後期の石器、土器が多く出土することから、縄文時代の集落があったと考えられています。かつて「芭蕉住居址」ばしょうじゅうきよあとと呼ばれた当地

は、昭和13（1938）年に発掘調査が行われ、報告書によると縦2m35cm、横1m20cm程で、大小50個の石が敷き詰めであり、敷石住居跡と考えられました。発掘時、県内の他の敷石住居で見られるような、敷石の境界となる立石が確認されなかったため、耕作などで掘り取られ原形より小さくなっていると考えられています。

なお、この遺跡について近年ではストーンサークルのような配石遺構でないかとの考えもあり、今後の研究が待たれます、

